

授業形式の好みに対して学習者特性が与える影響

～時間不安に着目した調査～

学生番号:1832009 氏名:石橋健吾

指導教員:山崎治 准教授

1. はじめに

オンラインによる遠隔授業は、大きく分けて、ライブ形式とオンデマンド形式の2つの授業形式に分類される。これらの違いは、学習者が学習を進めるタイミングである「時間」にあると考えた。本研究では、時間に対する考え方の1つとして、「時間不安」に注目する。「時間不安」とは「時間の経過それ自体を脅威の対象とした不安」(生和・内田, 1992)のことである。ここでは、時間不安の高い学生と低い学生に対して、「オンデマンド授業」と「ライブ授業」のそれぞれに対する評価をアンケートを用いて明らかにすることを目的とした。

2. 準備したアンケート

2021年度教職課程履修生を対象に実施された「動画教材に関するアンケート」の一部を参考にし、オンデマンド授業とライブ授業のそれぞれの授業形式に対する評価を行うアンケートを作成した。「途中で飽きやすい」「効率的だと思う」「履修を続けていくのが苦痛になる」などの14の設問で評価を行ってもらった。

時間不安を測定する項目は、工藤(2010)が作成した質問紙を用いた。「スケジュールに固執してしまう」「他の人より、時間にせきたてられてしまう方だ」など18の設問で評価してもらった。

3. 調査

3.1 方法

調査対象者: 本学教職課程履修生3年生30名(男性26名/女性4名)を対象に調査を行った。

手続き: 教職課程3年次科目「教育方法・技術論」の授業内にて、アンケートの説明を行い、協力を募った。事前に作成したGoogleフォームの回答用ページにつながるQRコードとURLをスライドで掲示し、学生各自の端末でアクセスを行い回答させた。調査1「学習方式の違いに関する調査」を行い、その後、調査2「時間不安に関する調査」を別日に行った。

3.2 結果

調査対象者30名全員から回答を入手し、時間不安尺度を得点化した。全体の平均得点は53.13で、標準偏差は12.81であった。また、時間不安尺度得点が18～45の調査対象者6名を「時間不安低い」グループ、

時間不安尺度得点が65～90の調査対象者6名を「時間不安高い」グループとした。

図1に、グループごとの「履修を続けていくのが苦痛になる」の評価の得点を示す。

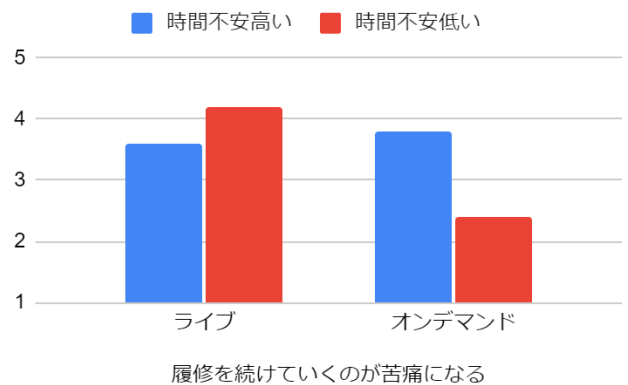


図1 「履修を続けていくのが苦痛になる」の評価に対する条件ごとの得点

上記のグラフから、時間不安の低いグループはオンデマンドの授業と比較してライブの授業では「履修を続けていくのが苦痛である」と回答する傾向にあることがわかった。

4. おわりに

時間不安の高低において、「履修を続けていくのが苦痛になる」を含めた評価がオンデマンドの授業とライブの授業では異なることがあきらかとなった。この調査の結果から、オンデマンドの授業における「受講時間を自由に選択できる」「繰り返し視聴することができる」というメリットについて、時間不安が高いと感じにくくなっていることが示唆された。

参考文献

工藤, 開. (2010, (未公刊)). 時間管理能力のタイプと自己効力感、メタ認知能力、時間不安との関係. 2009年度千葉工業大学情報科学部情報ネットワーク学科卒業論文.

生和, 秀., & 内田, 信. (1992). 時間不安の測定. 広島大学総合科学部紀要Ⅲ情報行動科学研究, (15), 71-85.